

氏名	蘇 衛 東
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2129号
学位授与の日付	平成13年3月25日
学位授与の要件	医学研究科生理系解剖学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Typology of the Arteries in the Human Scalenus Region, with Special Reference to the Accessory Ascending Cervical Artery (ヒトの斜角筋領域における動脈の類型解剖学、特に副上行頸 動脈について)
論文審査委員	教授 佐々木 順造 教授 徳永 勲 教授 井上 一

学位論文内容の要旨

鎖骨下動脈から起こり斜角筋隙を上行する細いが独立している血管である副上行頸動脈(新称、村上ら(1996))についてその起始、分布、破格、他の頸部動脈との関係を検討するため日本人成人遺体87体(174側)を調査した。154側(88.5%)には前斜角筋の後ろで鎖骨下動脈から起こるの副上行頸動脈が認められた。独立起始の副上行頸動脈は全例前斜角筋の後ろで鎖骨下動脈から起こり上行していた(105側)。この動脈は第6、7頸神経根に沿う脊髄枝、前および中斜角筋への筋枝、腕神経叢への神経枝を与えることを特徴としていた。この動脈は頸横動脈や肋頸動脈と共同幹を形成することがあり、これらの動脈は同じ動脈群に属し、発生学的には頸部体節間動脈間の肋前縦吻合の一部の遺存であると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、日本人成人87体(174側)の斜角筋領域における動脈系を調査したものであるが、従来ほとんど行われなかった副上行頸動脈について、その起始、分布、破格、他の動脈との関係についての研究により類型学的な考察を行い、鎖骨下動脈から起こり前斜角筋の後を上行する副上行頸動脈は154側(88.5%)に認められ、このうち独立起始のものが105側あること、この動脈が、第6、第7頸神経根に沿う脊髄枝、前および中斜角筋への筋枝、腕神経叢への神経枝を与えること、頸横動脈や肋頸動脈と共同幹を形成することがあり、これらの動脈が同じ動脈群に属し、発生学的には頸部体節間動脈間の肋前縦吻合の一部の遺存であることなどを示唆し、斜角筋領域における動脈について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。